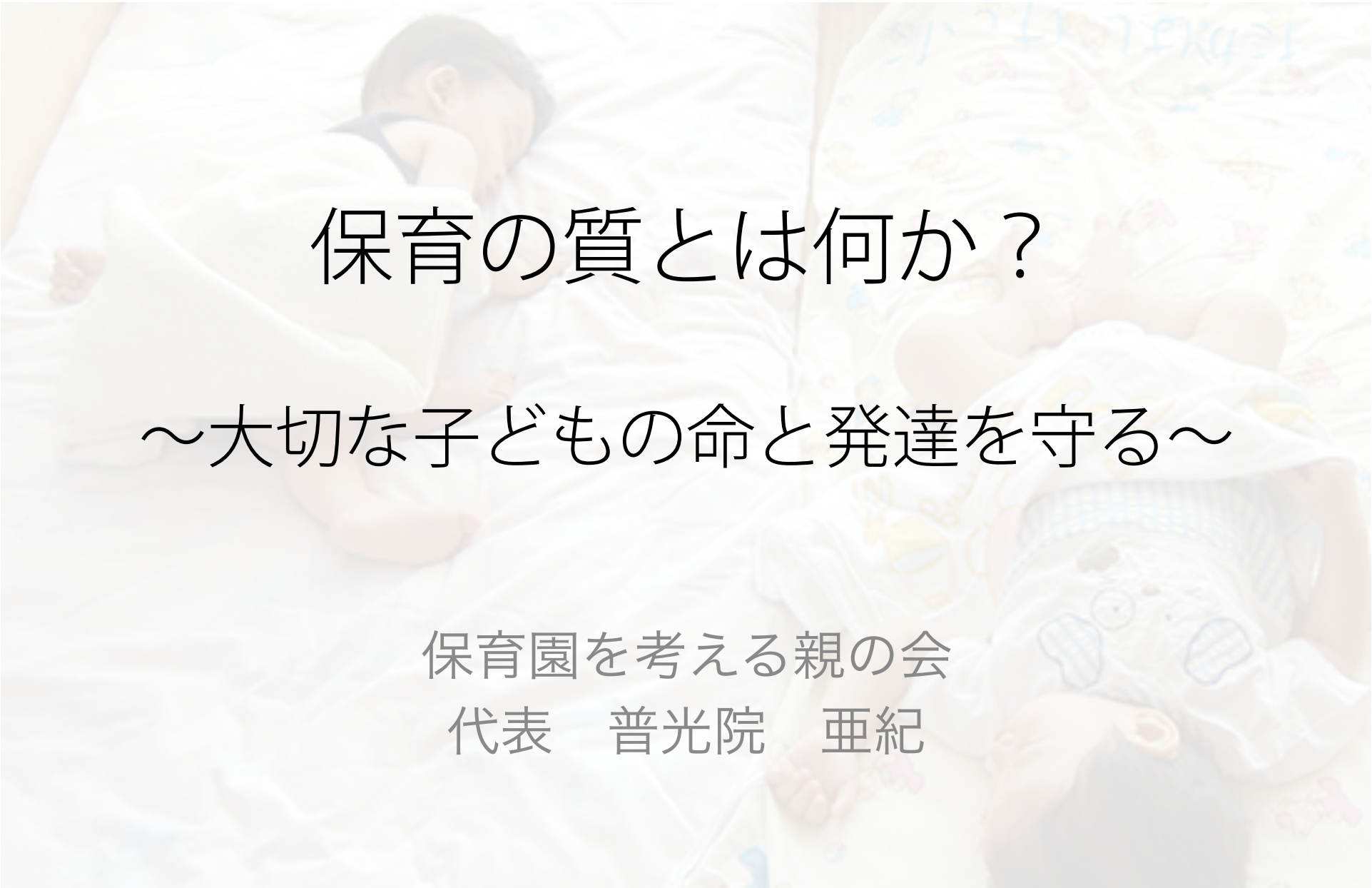


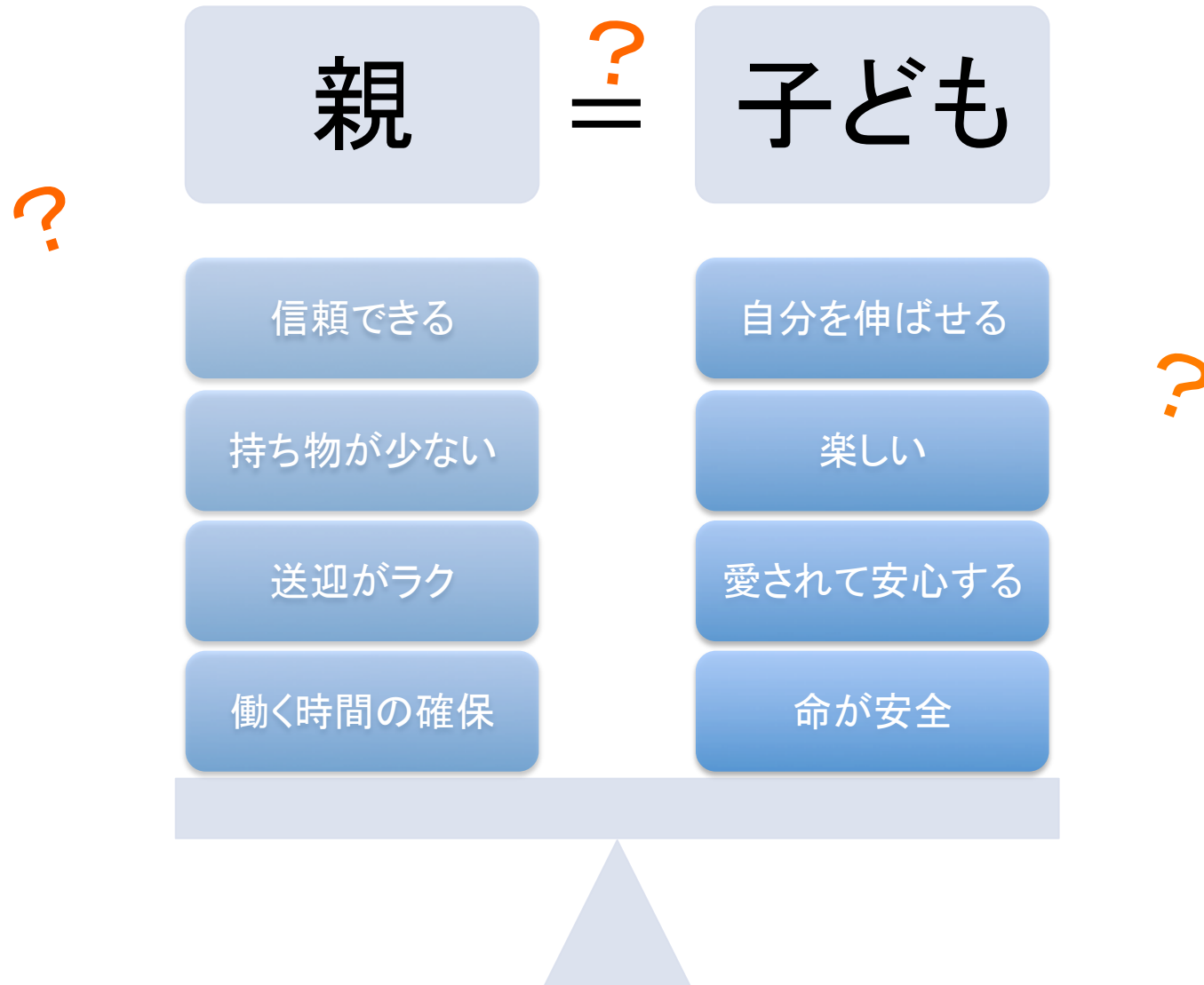


保育の質とは何か？

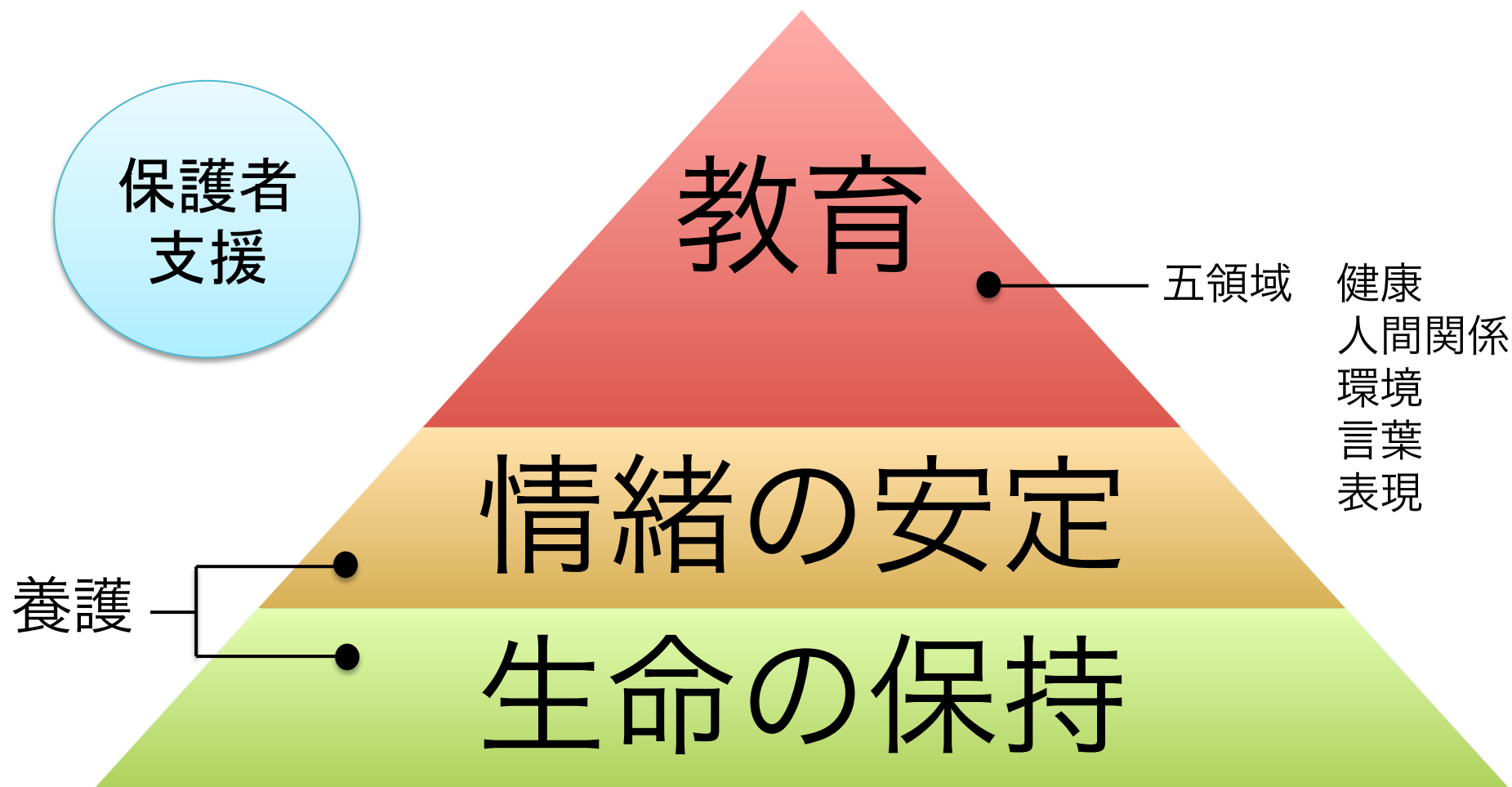
～大切な子どもの命と発達を守る～

保育園を考える親の会
代表 普光院 亜紀

「よい保育園」とは？



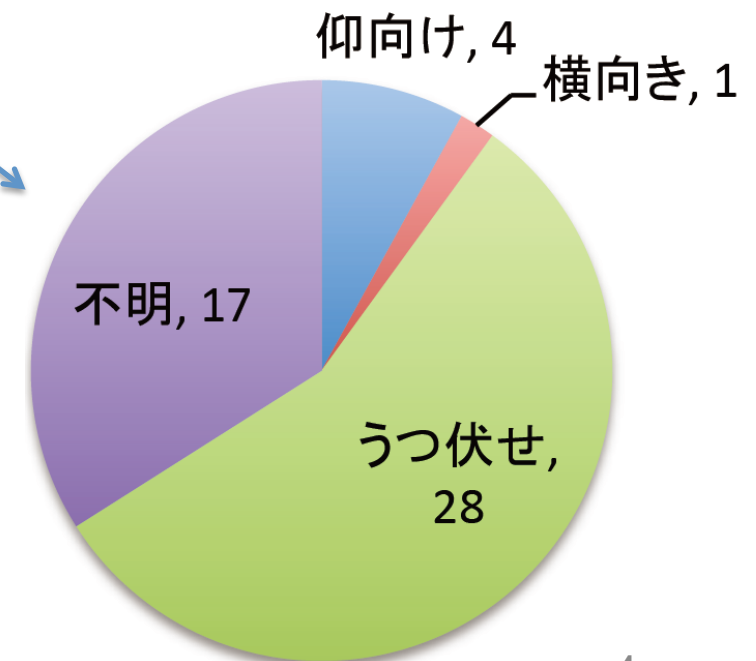
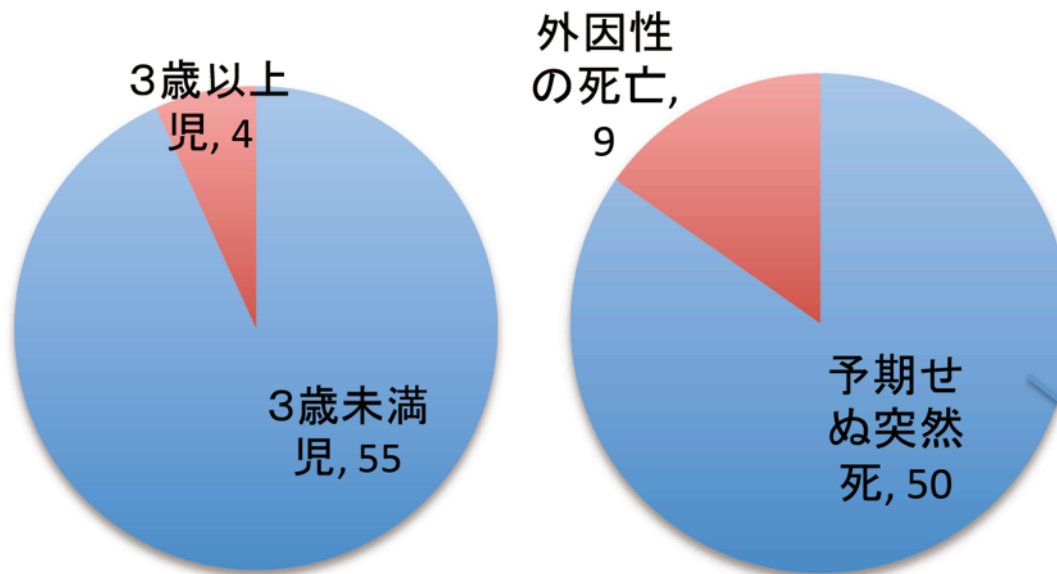
保育所保育指針が示す 「保育」の概念



保育施設の死亡事故から見える リスク

2008-2012年の保育施設
における死亡事故

＊「保育施設内で発生した死亡事案」（小
保内ら,2014）より



突然死発見時「**うつ伏せ**」の体位が多い

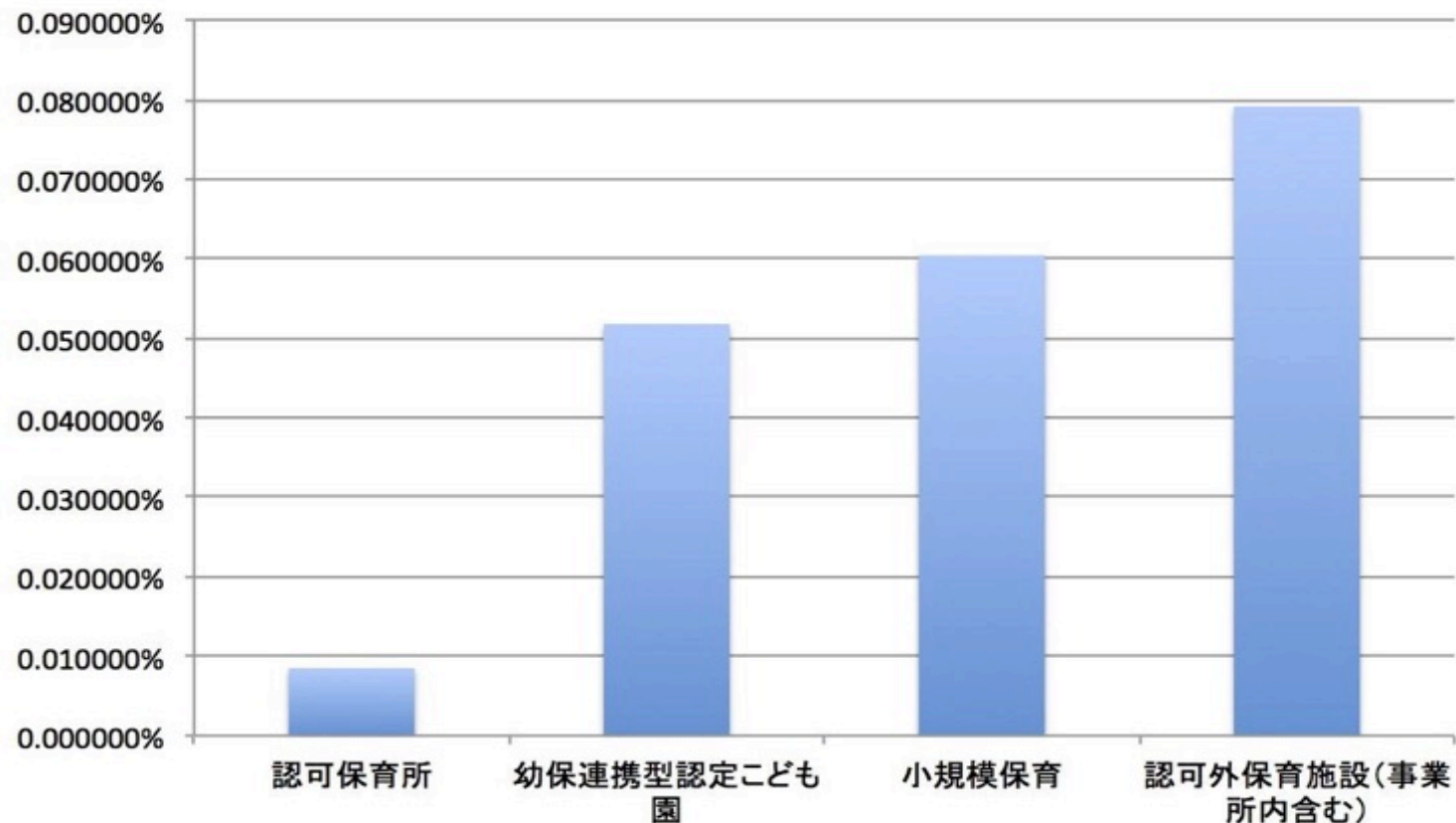
家庭では1歳児の突然死は1歳未満の10%程度であるのに、**保育施設では36.4%**に上る

職員の**未熟さ・人員不足**等による手抜きが誘因
となっている恐れ

突然死50例の内訳

死亡事故発生率と保育制度

施設数を母数とする死亡事故発生率(2015年)



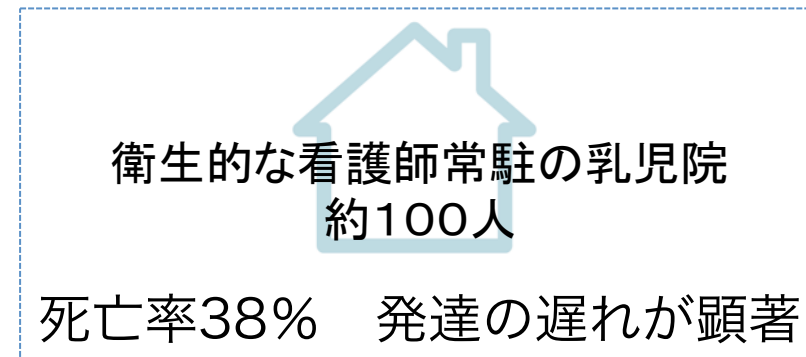
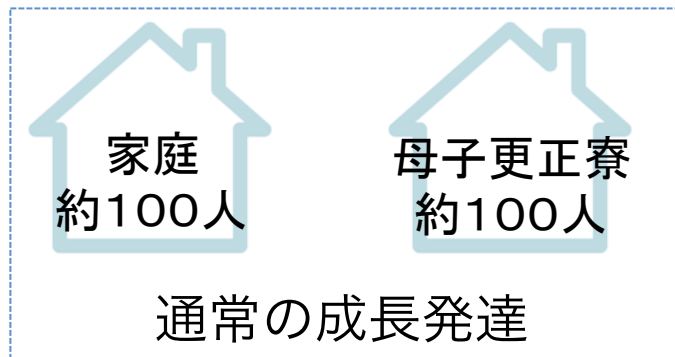
出典：内閣府「教育・保育施設等における事故報告集計」(2016)

2015年の死亡事故件数は14件。行政の関与が強い制度の施設ほど死亡事故発生率は低く、その違いは十倍～数十倍にもなる。この傾向は毎年変わらない。

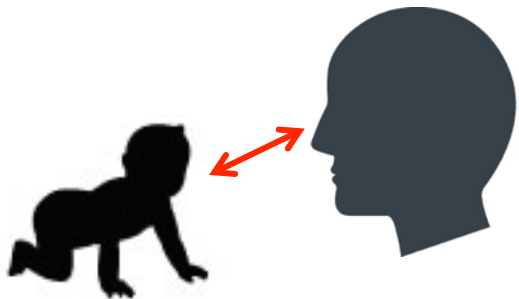
ホスピタリズム

ヒトは栄養と衛生だけでは育つことができない

- スピッツ（精神科医、1887-1974）の追跡研究



- ボウルビー（小児科医、1907-1990）の愛着理論



0～2歳では、特定の養育者との間の愛着関係の形成が必須（その欠如がホスピタリズム）。愛着関係の形成には、愛情深く応答的な関わり、スキンシップが必要。
子どもは愛着関係の対象を安全基地にして行動。

一人ひとりの子どもに向き合える
保育者の

ゆとり

(手がかけられる)

専門性

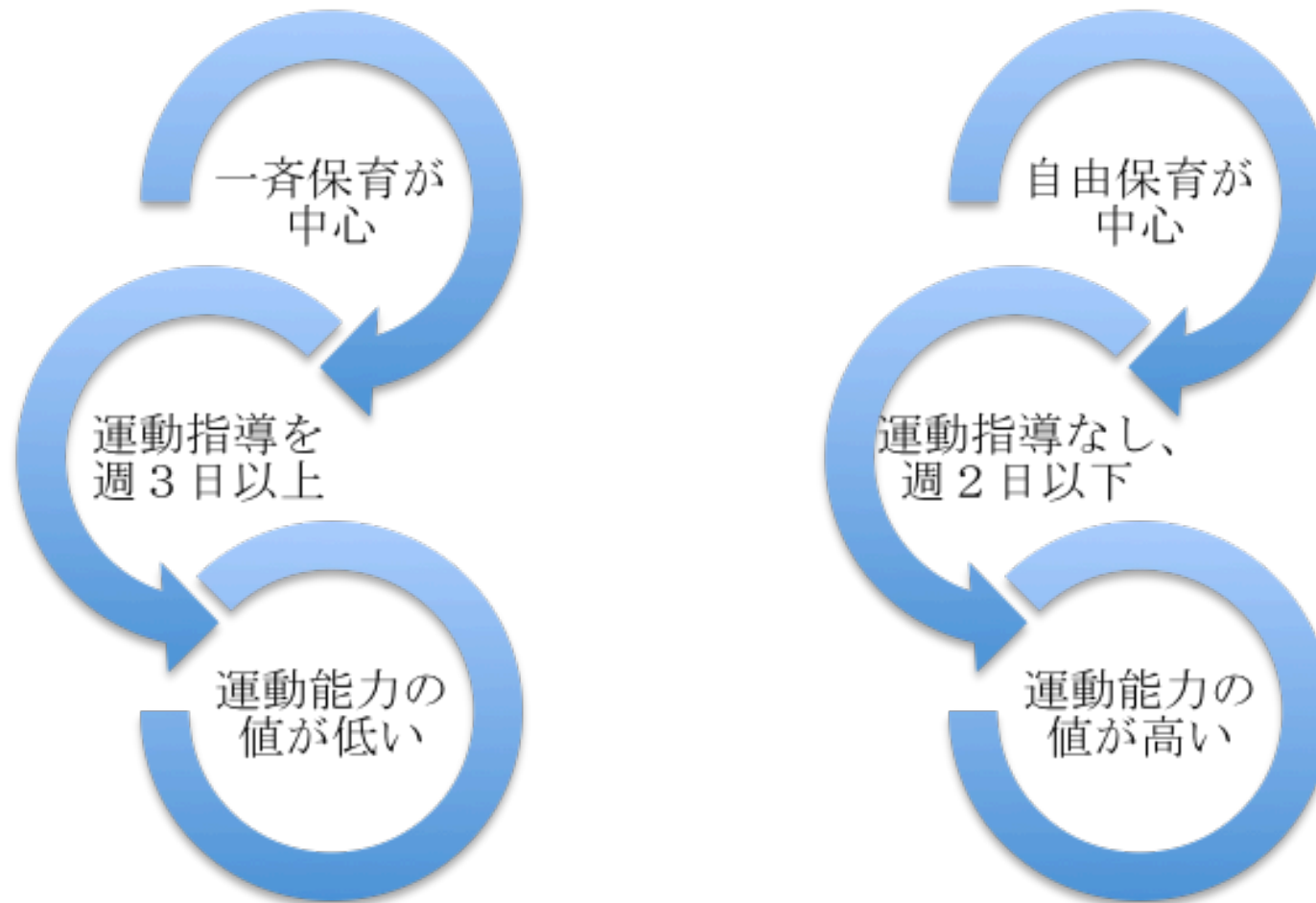
(子どもの身体・心理・発達への理解)

経験

(適切な判断・対応ができる)

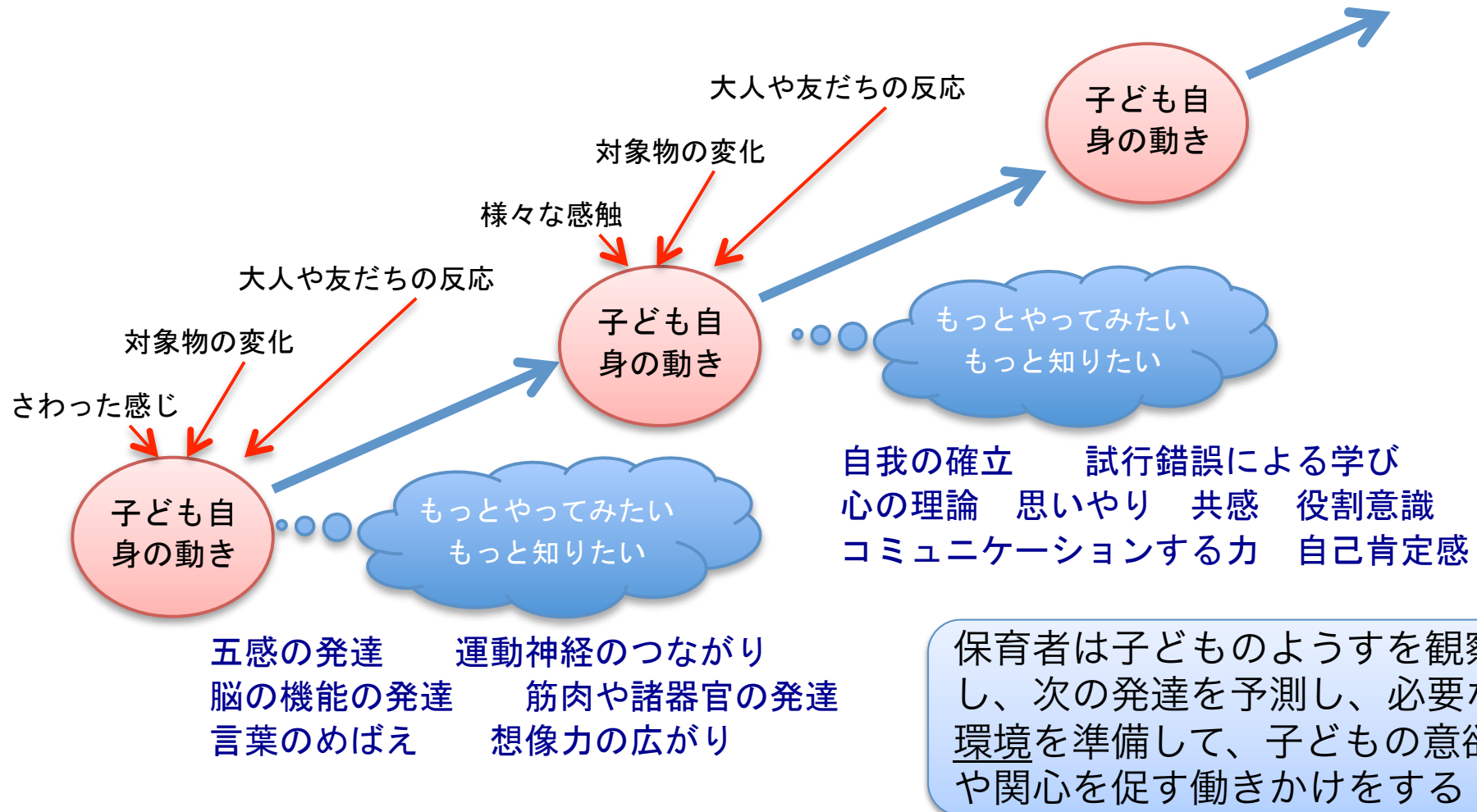
が必要

なぜ？運動指導に熱心な園のほうが運動能力が低かったか？



幼稚園・保育園の保育手法と運動能力測定からわかったこと
(東京学芸大学・杉浦教授の研究チーム等による)

心身のすべての機能が、
その最も基本的なところから、
相互に触発し合って発達する時期

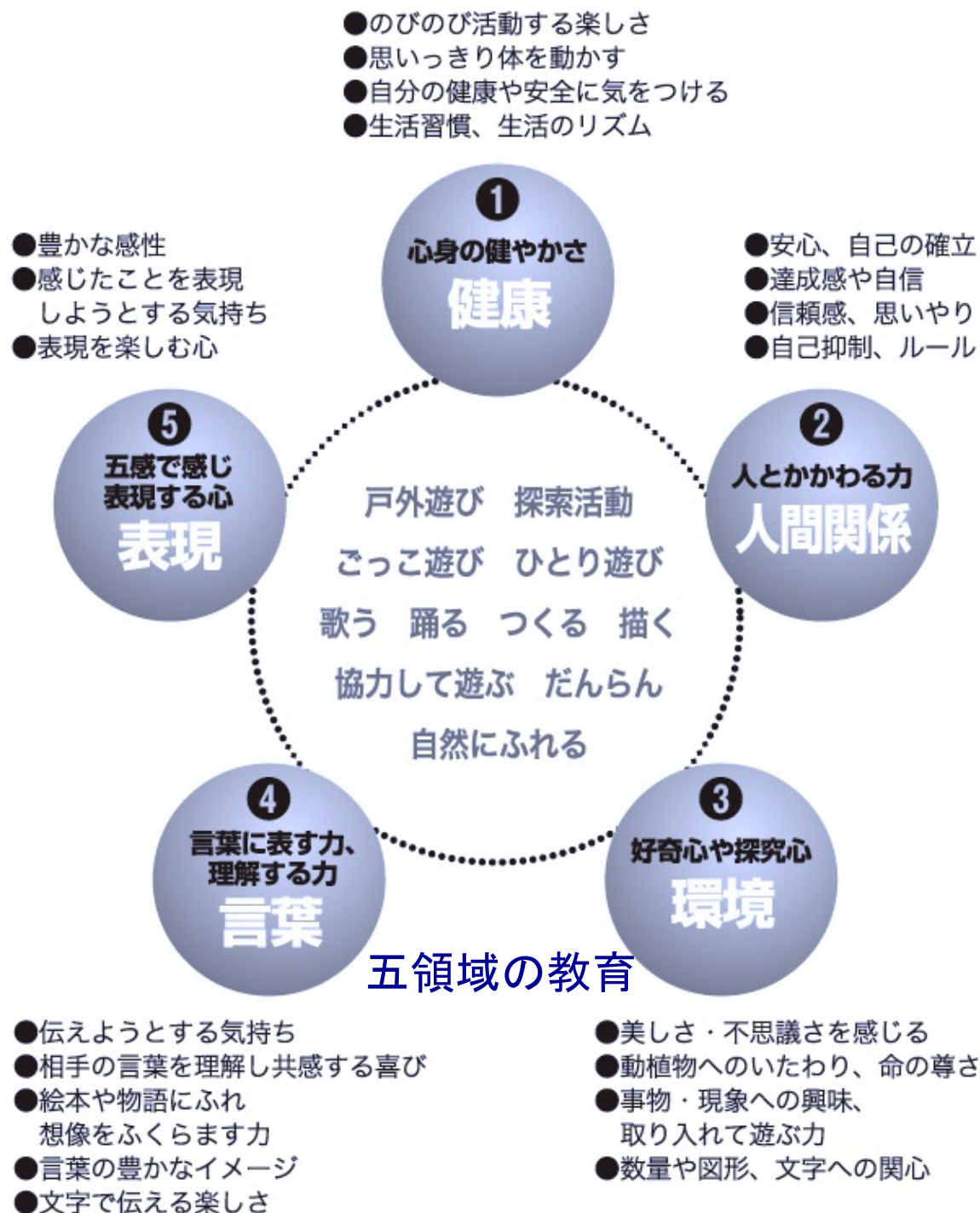


幼稚園・保育園 共通の基準

幼稚園教育要領も

保育所保育指針も

子どもの
主体的な遊び
を通した教育を謳う



←『共働き子育てを成功させる5つの鉄則』(普光院、集英社)より

集団の中で培われるもの

ごっこ遊び
ルールのある遊び
共同で制作する
けんか
けんかを話し合う
当番活動

想像が広がる
言葉で伝える
役割意識をもつ
達成感を感じる
共感する

相手を理解する力
言葉で表現する力
自分を抑制する力

認知スキルと非認知スキル

認知スキル

- ・ 知能指数
- ・ 学力など
- ・ 計測可能な力

非認知スキル

- ・ やり抜く力
- ・ 意欲
- ・ 自制心
- ・ 協調性、社交性
- ・ 自尊心

どんなに高価な教育を購入しても
子どもをフラスコの中で
純粹培養することはできない



子どもが育ち合う場＝学校・幼稚園・保育所 etc.

社会が子どものために保障し、家庭が協力して支えるもの

就学前教育のツボ



子どもの主体性

「自分で」しないと身につかない



発達の個人差・順序性

「一人ひとり」が大切



偏りのない全人格的な発達

自然に必要な機能が選ばれる

＊学齢期の「教科教育」
重点ポイントが違う
とは

求められる「保育施設の質」

〔施設の質〕

設備 保育室のゆとり
園庭等の環境
適正規模の調理室

教材 遊具・玩具・絵本等
表現の道具や素材

人材 施設長の資質
保育士の資質
その他の職員の資質

保護者 保育への理解・協力

支える

〔事業者の質〕

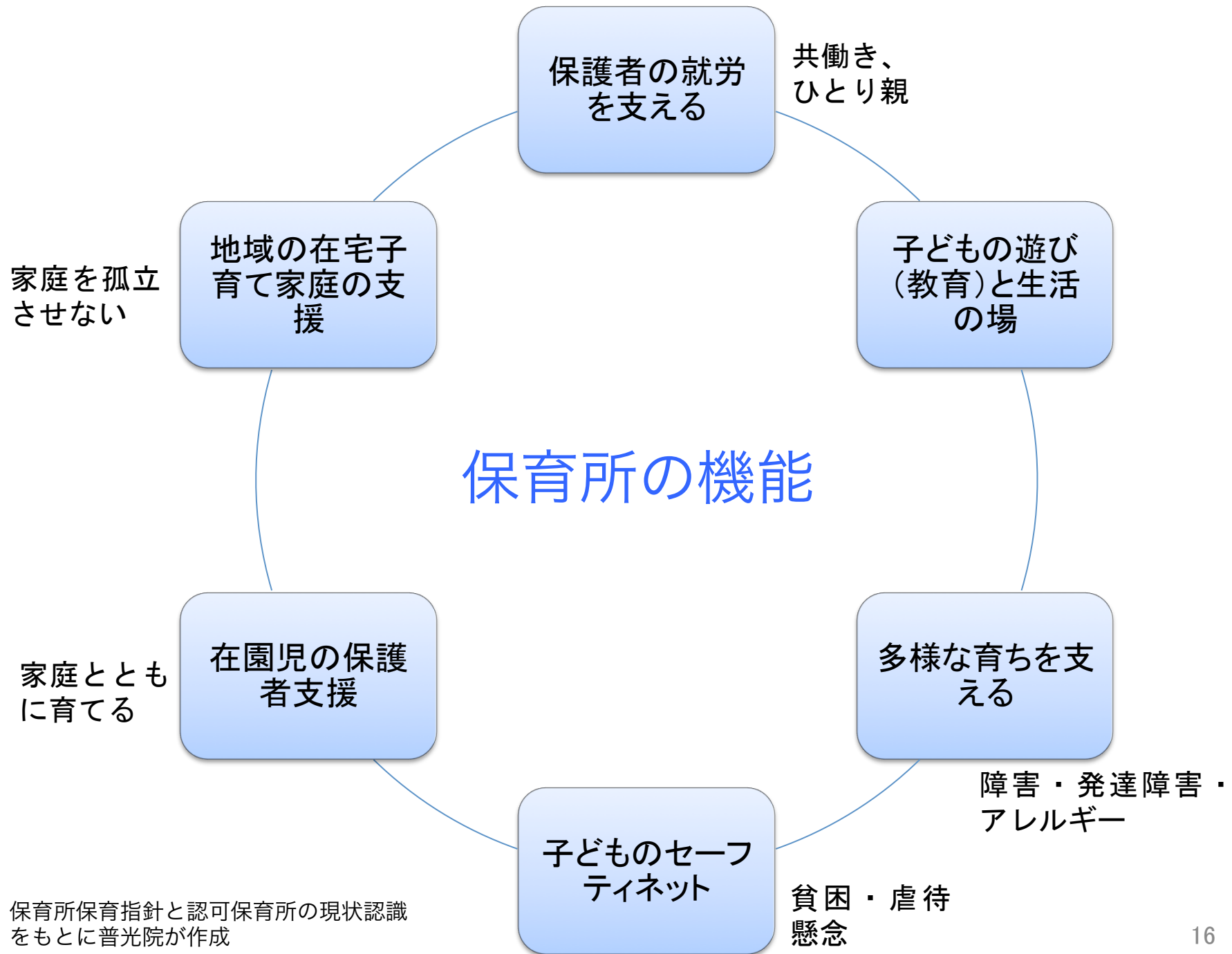
理念 子どもの尊重
保育に関する専門性
児童福祉への理解

具体 施設設備・教材への投資
職員育成
職員の適正な処遇

☆現場の声を聞き
必要なお金を使い
必要なサポートをする

支える

国・自治体の基準と給付（公費の投入）



子どもを守るために

■園選びでは

- ①見学は複数施設を、できれば複数の目で見て話し合う
- ②施設は保育室の中まで見学できるか（入園後もできれば玄関で預ける方式でないほうがいい）
- ③「うつぶせ寝」への対応はできているか
- ④常勤保育士が定着して保育する体制になっているか（系列施設間で行ったり来たりは×）
- ⑤ぴっかぴかで何もない保育室は清潔だけれど、子ども安心や遊びが不足している場合も
- ⑥きれいなホームページ・パンフレットは本社がつくる。施設の質は別物。だまされない
- ⑦強く不安を感じたら、候補からはずす

子どもを守るために

■入園後は

- ①預け始めの事故が多いので、慣らし保育は省略しないで、
ていねいにやってもらう
- ②担任と連絡をとりあい、子どものようすを聞き出し、気になることは伝える（できれば、夫婦それぞれやりとりする）
- ③気がかりなことを園に伝えても、取り合ってくれなかったり改善しないときは、他の保護者の意見も聞ければ聞き、問題がある場合は市区に相談する
- ④仕事が忙しくても、保護者懇談会、保育参観（参加）、個人面談などはなるべく行く
- ⑤父母会があれば、なるべく参加する

【著書】

普光院著書：

- 『共働き子育てを成功させる5つの鉄則』（集英社）
- 『共働き子育て入門』（集英社新書）
- 『変わる保育園』（岩波ブックレット）、
- 『よくわかる保育所保育指針』（共著、ひかりのくに保育ポケット新書）
- 『保育園のちから』（PHP研究所）
- 『教育原理』（共著、光生館）
- 『「保育」の大切さを考える』（共著、新読書社）

ほか多数。

保育園を考える親の会編著：

- 『はじめての保育園』（主婦と生活社）
- 『働くママとパパの子育て110の知恵』（医学通信社）
- 『保育園ママ＆パパのための 子どもの病気お助けガイド』（学陽書房）
- 『保護者の「ホンネ」がわかる本』（ひかりのくに保育ポケット新書）
- 『「小1の力べ」に勝つ』（実務教育出版）ほか。
- 『100都市保育力充実度チェック』（毎年発行、現在2015年度版が最新。

ホームページにて頒布中）。

